

平成30年度 長崎県立清峰高等学校学校関係者評価 報告

1 学校関係者評価委員

西尾 弘毅

溜 美恵子

吉福 弘司

中村 尚広

2 学校関係者評価の内容

- ・生徒一人ひとりの持ち味を引き出し、個にあった進路の選択など実践されていると感じます。
- ・的確な講演会なども実施されていて、地元・地域にこのような高校があることに、大変ありがたく思います。
- ・出席率の良さと不登校の少ないこと、挨拶がよくできていること、地域に対して良く協働し、ボランティア活動にも先生が先頭に立って生徒の意識を引き出して活動していること、志願倍率も1.2倍と大変優秀な学校であることに驚かされます。
- ・社会に出たときにリーダーシップの取れる人間に育ててほしい。
- ・生徒アンケートの集計結果で、「学校では丁寧でわかりやすい授業が行われている」「学校は相談しやすい体制にある」の項目で、あまり当てはまらない、全く当てはまないと回答した生徒の事由が気になる。
- ・登下校の安全指導については、車両等に接触したり交通事故に遭遇したりしないように細心の注意喚起をお願いします。特に学校から松浦鉄道清峰高校駅までの区間で、踏切及びY字路坂、歩道としての区分がなく車道にはみ出しが予測される場所については、行き来する生徒に周知徹底の指導をお願いします。(同じ場所を通学する佐々小学校の児童も同様ですが)
- ・進路指導や教科指導等は生徒・保護者とも高評価である。特に学年経過とともに評価が上がっていることが、清峰高校でのキャリア教育充実の表れであり、先生方の努力のたまものである。
- ・体育祭や総合学科発表会等の学校行事への取り組みも、生徒・保護者とも高評価である。自主性の表れとともに学校生活を楽しんでいることが伺える。
- ・生徒指導関係の評価は、職員・生徒・保護者とも高評価である。教育環境・学校の雰囲気が高く、まじめな生徒が多いように思われる。
- ・部活動評価が学年毎に低くなっているのは、自己評価が低いのか、達成感がたりなかったのか不明である。
- ・2年生は学校に対する慣れと部活動や進路に対する不安など、精神的に不安定になりやすい時期でもあり問題行動も表面化しやすい。反面責任感が育まれリーダーが育つ時期でもある。さらなる生徒育成をお願いしたい。
- ・相談しやすい体制が、生徒・保護者とも全体に比べると評価が低い。2年生は進路や部活動や友人関係などで精神的に不安定になる時期である。また、学校生活での行動の中に家庭問題が潜んでいる場合もある。生徒の観察と細やかな声かけ等で変化に気付き、相談相手となるとともに、家庭問題に関しては学校全体で外部機関と協力して解決にご尽力ください。
- ・学校が本来の姿である人間教育を実践していることに感謝したい。